



愛隣幼稚園..... 園だより 13. 12月号

喜びを分け合って

愛隣幼稚園のクリスマスは、カレンダーより半月ほど早くやってきます。先週の火曜日には幼稚園がクリスマス色になり、イエス様の降誕を待つアドヴェント礼拝を守る時となりました。ホールに集まった子どもたちの前には大きな4本の蝋燭が置かれました。初めての子どもたちには何が起こるのか興味津々の礼拝の始まりです。優子先生が簡単に今日から始まる礼拝の話をして、1本目の蝋燭に灯を点した時です。「おめでとう！」「おめでとう！」あちこちから嬉しそうな声が聞こえてきました。この声の主は本当は、いつものお誕生会のつもりになって「おめでとう！」を言ってくれたようなのですが「間違いはない！」確かにイエス様のお誕生おめでとうの日“クリスマス”を待つ礼拝の始まりです。それで気づきました。彼らは初めて「おめでとう！」のクリスマスを経験しているのです。日本のクリスマスの風景は、イルミネーション、仲間や家族が集まってするパーティ、サンタクロースとプレゼント、そんなところが定番でしょうか。子どもたちには「サンタさんプレゼントありがとう！」のもらって嬉しいクリスマスです。クリスチャンはごく僅かの日本ですから、クリスマスの本当のメッセージを知らなくて当たり前です。いいとか、悪いとかそういうことではありません。そんなことを考えていた時、ドイツに留学の経験がある先生がお話してくださいました。ドイツでは、クリスマスには仲間が集まって自分があげたプレゼントのこと、そして相手がそれをどんなに喜んでくれたかということなどを皆で語り合っていたそうです。嬉しい顔、喜び顔を見てそれが自分の喜びとなる、キリスト教の文化の中に暮らす人たちのこれは当たり前のことなのでしょう。いただく喜びと与える喜び。矢印の向きの違いを感じます。

さて愛隣の子どもたちですが、“いっぱい楽しいことを分けてもらったから、今度は楽しいことを分けてあげたい”“嬉しいことは自分だけじゃなく、みんなにも”そんなことを考えて動き始めている様子をよく見るようになりました。自分の事だけでどの子もいっぱいだった1学期には、想像もできなかった変化です。夢中になっておもしろいこと楽しいことを考えてあそんでいると、そのことは誰かにも伝えたくなくなります。「ね、おもしろいでしょ。」と自分も楽しいことを分けてあげて、共感してほしくなります。「わっ、おもしろいね！」とってもらえたら、もっともっと他の仲間にもと思うようになるようです。分けてもらって、いただいて嬉しかった経験は、“もっと欲しい、もっともっと欲しい”にはならない。自分に向っていた矢印は、いつの間にか大切なものを自分から対象に向って差し出す矢印に変わっているのです。誰かにそうしなさいと言われたわけではありません。ただ自然に、それが当たり前のように子どもたちは喜びを分け合う人になっています。喜びを分け合えたことが自分の中でもっと大きな喜びになるということ、たんぼ組の子どもたちも経験するのです。そして、今、愛隣幼稚園はクリスマスの日を迎えようとしています。

クリスマスに歌う♪すばらしいホーリーナイトという曲があります。子どもたちが大好きな曲です。ばらとたんぼは3番しか歌いませんのでその歌詞を紹介します。

ありがとう神様 心からありがとう 私たちのために イエス様をありがとう

私たちの喜びは 歌とかわって 星空の下に響くよ すばらしいホーリーナイト

私たちは神様からたくさんの愛をいただいています。神様のひとり子が人となってこの世に生れてくださったことがこの大きな愛のしるしです。『神様はいつも私たちと共にいてくださる』この喜びを私たちは子どもたちと共に神様からいただきました。今度は矢印を自分から外に向けて、クリスマスの喜びを皆に分ける嬉しさの中で私たちはこの時を過ごしたいと思います。メリークリスマス!